

19/3/13 名古屋市議会経済水道委員会 名古屋城関係分

(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

江上博之（共産・中川区）：次に、資料をいただきました。名古屋城の方に移りたいと思います。名古屋城の関係で実施設計項目出していただきました。

これは予算の繰り越しというのもあって、今年度やる事業がこれプラスアルファになると思いますけれども、これは直接木造復元の現状変更許可の基本計画の作成に直接影響するものではないということなんですか。

荒井主幹：委員おっしゃるとおりでございます。

江上博之（共産・中川区）：ちなみにこの実施設計の現時点での完成予定はいつごろを考えてみえるんですか。

荒井主幹：実設計自体はですね、後期は 32 年度のまでありますが、設計図面等の作成業務、そういった設計業務につきましては来年度末、31 年度末に完成を予定を今現に考えております。

江上博之（共産・中川区）：問題木材、木材の製材と書いてありますが実は木材費用も入ってて木材の購入ということもありますが、昨年 6 月で契約案件が出たのではないかなとそれ以前だったかもしれませんけれども、これも木材費がこれで全てということになるんですか。

荒井主幹：木材費としましては、昨年、6 月市会に、ああ今年度の 6 月市会におきまして契約議案として上程させていただきまして契約を締結させていただきました。

全体金額としましては 94 億ほどあります。

そのうち、各年度ごとにですね、出来高金額として支払っていくという予定をしております、今年度も 20 億来年度は 27 億ということで支払いをしていく予定をしているということでございます。

江上博之（共産・中川区）：構台等仮設工事、これは解体の問題に関わります。

これについては、5 月の現状変更許可が下りなければ、予算としては執行ができないというお話でしたけれども、木材については、これ本来だったら木造復元現状変更とかがあって初めて立てれるわけですけども、木材の方はこの予算が認められまたどんどん買わっていくと、こういうことになるんですか。

荒井主幹：契約議案を上げさせていただいたときにですね説明をさせていただいたこととちょっと繰り返しになっててしまうところがありますが、その契約議案を上程させていただいたときにですね、そもそも、許可の見通しが立ってない状態でどうして契約議案を提出するのかと契約するのかと。木材について契約するのかっていうことに対して、我々の考えとしましては、今回木材を契約する上でですね、竹中工務店の技術提案に基づいて、工程表があると、その工程表に沿って、木材を確保していかないと予定通り、木材が調達できなくなる。そして、さらに一旦予定しているその木材をですね手放してしまうと、なかなか手に入らない貴重な木材ということもありまして、二度と手に入らなくなる可能性もある、ということですので、そういった場合にですね、木材が手に入らないということになりますと事業自体にかなり大きな影響を与えるということがあると、さらに、そんなとき6月定例会のときにはそのタイミングで契約していかないとですね。2022年12月、というのが完成というのが難しくなるということで契約をさせていただいているということでございます。

江上博之（共産・中川区）：丁寧な説明いただきましたけれども、最初の質問に戻りますけれども、要はこの案件が通ったら現状変更許可申請が許可、許可がなくても買っていくということになるわけですね。

西野所長：今回お解体の準備の予算を上げさせていただいておりますこちらにつきましては、この5月に許可をとって解体準備工事から解体工事に入っていこうという考えでございますけれども、あわせまして我々は並行してですね、木造復元を目指して今、行っておりますので、こちらにつきましても、今後、許可をとって進めていくと、そう考えておりますので、木材につきましては契約通りですね調達に努めていくと、そういうふう考えているところでございます。

江上博之（共産・中川区）：前は予算が通ったら、契約もなされているので買うと、こういうことだと思えます。

これ復元許可のね、見通しもないのにこういうものを買うということ自体問題であり、こういう予算のね、提案は撤回をすることが必要だと思っております。

それでこういうことをやる理由にですね、2022年、天守閣木造化、この期限だということをしきりに言われる。

その理由に耐震化と言われる。その耐震化の問題について、ちょっとお聞きをしたいと思えます。まず耐震化の問題で、名古屋市は特別史跡、名古屋城跡全体整備計画、こういうものを持っておったと思えます。

それはその時には現天守閣は耐震補強するとそういうことになっていたと思えますがそれはいつ計画としては出てきましたか。

名古屋城保存整備室 岩本室長：平成 18 年でございます。

江上博之（共産・中川区）：平成 18 年ということは 2006 年だと思います。

河村市長が当選されたのが 2009 年でありあくる年に調査をして調査を受けて、全体整備計画の増補版でしたかね、これを作られたと思います。

市長、河村市長になってから、増補版を作ったそのときの増補版でも現天守は耐震化、耐震補強となっていたと思いますがそれでよろしいですか。

名古屋城保存整備室 岩本室長：平成 24 年の 12 月に増補版を出しておりますけれども、その時点でも委員おっしゃる通りでございます。

江上博之（共産・中川区）：木造化という形になったのはね名古屋市の計画では、今年の 4 月か 5 月、保存活用計画、そこで初めて保存になった。

ということはですね、年数的にはもう耐震補強が必要だということはずっと言われてるわけですよ。ここへ来て急に木造の話になったら、何か耐震化のために木造だ木造化と言われるけれども、遅らしてきたのは木造復元をしようとするから遅らせてきているということではありませんか。

特にですね、木造復元のめどが立たないってことは、耐震性を確保することもできないと木造造りにしない限り耐震補強が耐震の補強耐震を保つことができないというのは名古屋市としては今現時点でそうなっていると思いますけれども、木造復元しか今名古屋市としては、考えていない。こんなことをくどく聞くことはありませんけれども、そういうことですよね。どうですか。

西野所長：耐震性が低いということについては以前より認識を持っておりまして、耐震改修するという全体整備計画の方の中にも掲げておりました。

その後、耐震改修よりもですね、史実に忠実な復元によってこの対策を行うということがいいのではないかという検討の中で、平成 27 年度 28 年度にかけてですね、木造復元を行うと、で対応するとそういうふうな方針に決めているということでございますので、名古屋市としては現在木造復元という考え方しか持っていないということでございます。

江上博之（共産・中川区）：従って、耐震性がないないそれを木造化の理由にするのは、市としての勝手であって、本来もうとっくに耐震補強ができているということが明らかに改めてなったと思います。

最後にこの件についてちょっと局長に確認をしていきたいと思いますが、この構台仮設の問題についても現状変更許可、皆さんは願望としてやりたいと言っておりますけれ

ども、諸条件を見ると大変難しいしできないと私は思います。

また木造復元この現状変更許可もますます見通しがなくなってきていると思います。

そういう点で、耐震性を理由にですね遅らせてきたのは市の責任であって、ここら辺のことについて、市としてきちんと判断をしているのか改めて予算案を撤回することが必要じゃないかと私は考えますが、いかがお考えでしょうか。

渡辺局長：今所長も申しあげましたように平成 27 年にはタウンミーティングを行い、28 年度には市民説明会、2 万人アンケートそういった手続きを踏んで耐震化から木造化へという判断をしてみりました。

今撤回というお話でございましたけれども、昨年来石垣の問題で検討を進めておるところでございますけれども、今回の現状変更許可についてもそれらの課題を解決した上で文化庁に提出し許可をいただくということで、全力で取り組んでおりますので、今回のご予算をお認めいただいた上で木造化に向かって邁進していきたいというふうに考えております。

江上博之（共産・中川区）：名古屋城の関係はこれで置いときますけれども、文化庁のね、許可これを理由する前にどう考えても石垣部会っていうのは名古屋市の内部の組織なわけですよ。

名古屋市の中でもこれだけ疑問のあるものを文化庁に渡すということ自体、文化庁に判断を求めるということ自体、やっぱり市としての責任をね、僕は回避してるとやっぱり市の責任ある立場としてやるべきことじゃないということを申し上げておきたいと思います。名古屋城関係が以上で終わります。

松井よしのり（自民・守山区）：私もちょっと名古屋城の件に関しましてのいろいろ確認だとか心配事、確認をしたいと思います。

おとついてもいろいろとですね質問させていただいた中におきまして私も非常に今回の仮設工事のことの予算についてですね、疑問だとか、心配ごととしてるといような形で思っております。ちょっと確認今回の前回の資料にもありました。

現状変更許可申請提出に当たっている留意事項の中にも書いてあります石垣部会の意見を付すことということ意見を付すことということの解釈、私はこれ意見を付すことということは石垣部会さんにも認めてもらう、了だよというような形というふうに取りますけども、局としての考え方を教えてください。

村井主幹：私どもといたしましては今、今度行われます石垣部会において石垣部会の方々の了解をいただくというのを目指して頑張っておるところでございますけれども、最終的にはどのような意見をいただいたといたしましてもそのままそれを付して提出すると

いうことを考えております。

松井よしのり（自民・守山区）：どのような意見を言われてもということは認め、了解得られてないものも出すということの意味しているということでもいいのかな。もう一度教えて。

西野所長：復元の許可に当たりましては、やはり石垣部会の了解というのが了解というか理解を得ることが必要になってくるというふうに考えております。現在、それが認識の一致が得られていないということで、すぐには難しいという状況でございます。

今回の解体につきましては、一番大きいのはやはり解体ですね石垣については影響を与えないという形で解体できるかどうか。これは一番最初から文化庁が言われておりますからこれ一番大きいというふうに思っております。

それ以外の調査ですとか、それから石垣保存の方針については今すぐ100%のものでなくてもですね、これから石垣部会とも相談しながら、我々としてはそういう方針を作っていくという、そういうふうな姿勢でありますので、現時点はこういうところを今後こういうふうに進めていってくださいとか、そういうふうなご意見をいただいて、そういったものも含めて文化庁に示しているというふうに考えておりますので、石垣部会の理解ということとイコールではなくてあくまでも今回私どもが現時点で考えていることで石垣部会の意見をそれに加えた形で出していくと、そういうふうに考えているところでございます。

松井よしのり（自民・守山区）：皆さんわかりましたか。今の説明私はあまり理解できない。うん。

普通に考えれば付すことというような意味合いというのは、石垣さんともいろいろ検討した上で、それで石垣さんが石垣部会さんが了解を得たというようにとるのが、僕は普通でないかというふうに今所長いわれたことにつきましては、ちょっと私もねまた疑問が生じております。

そんな中においてねこれ構台仮設工事がですね、これからやるというようなことに当たってはですね、当然のことながら5月に出されるころのものが通ってからというような形になるだろうというふうに思います。

今の所長の言われるような形の中におきましてはまた私もちょっと心配がしてきたということが今感じていることでもあり、そしてまた、先ほどの江上先生、江上委員からお話あったとおりに木材の調達についてもですね今昨年、今年度の6月にですね契約の審議をしたときに我々もですね私ども自民党の要望というような形にもですねきちんと要望したはずですけども、当時の我が党の要望を付してというような形の要望の部分につきましては、ちょっと確認ですけども我々の要望も一度その当時の要望につきまして、議事録というのがあると思いますけどもちょっと読み上げていただけませんか。

蜂矢主幹：6月定例、6月に受けましていただきました要望につきましては、木材の調達に当たっては文化庁から与えられた課題を確実に解決し、現状変更許可の見通しを立てた上で計画的に行うこと。

事業費の上限を500億円とすることは、市民や議会との約束であり、実現に向けて最大限努力する最大限の努力をすることということでございます。

委員 松井よしのり（自民・守山区）：見通しってというのは今現時点ではきちんと立っているというふうにいえるんですか。

蜂矢主幹：木造復元の現状変更期間の見通しにつきましては、今のところ明確な見通しは立っておりませんが、解体の現状変更許可の取得に向けては今文化庁ともいろいろお話をさせていただいているところでございますので、私どもとしていたしましては、確実に取得をしていきたいというふうに考えているところでございます。

委員 松井よしのり（自民・守山区）：要望にね、要望をいって見通しがついていない状況でもかかわらず、木材を買っている状況で、先ほど所長も言われたけれども、もう一度言うけど要望にあるいは反して買っているというような意味合いでとっていいのね要は、ちょっと厳しいよ。

西野所長：昨年6月議会です、現状変更許可の見通しを立ててというご要望をいただいております。

私どもそれに向けて、7月の復元検討委員会にかけていただけるようにということで文化庁にですねお話に行ったりと、そして10月の文化審議会に何とかかけていただけないかと。まさに何度もですね、文化庁とのお話をさせていただいて、現在のところ残念ながら見通しが立っていない。そういう点は大変申し訳ないと思います。

ご要望にできるだけ沿うように私どもとしては、早期に見通しを立てるように努力したいと、そういうふう考えております。

委員 松井よしのり（自民・守山区）：まだそれでそれでもかかわらず頑張ってるっていうのはわかるけれども、頑張ってるにもかかわらず見通しが立って立ってない状況においても、木材買ってるんだよね、木材を買ってることについての意見を言ってもらいたい。

西野所長：木材につきましては、先ほど答弁させてさせていただいたところでございますけれども、この技術提案交渉方針の中で進めていくにあたって、この木材の確保というのは非常に大事であるということで、そのタイミングです、確保しないと、今後事業に大きな支障が出るという判断です、契約の方をお願いしたというところでございます。

ので、木材の方は進めていくという考えでございます。

ただ、現状変更にかかる見通しについては、できるだけ早く見通しを立てるように努力する。そういうふうを考えております。

松井よしのり（自民・守山区）：言い訳というようにしか聞こえないと思いますし、それが結局今回のこの今仮設工事にもですね非常に心配だということが言えるんです。

要は5月に行われるですね、文化庁の許可がおりるね、おりないにもかかわらずっていうところにひょっとしてなるんじゃないかという疑問が今、私自身は思っております。

非常にね今回のこの構台の仮設についての予算についてはですね、厳しい判断を我々もしていってところになると思いますんで、現時点では私自身ではですねまだまだ疑問を感じざるにえられないという状況として、思っているところであります。

先輩からもご意見があると思いますんでお願いします。

中田ちづこ（自民・中区）：天守閣の解体のための仮設工事に係る予算については、我が党からも、しっかりと議論をさせていただきました。

そして私としては、文化庁からの天守閣解体に係る現状変更許可が得られて、そして無用な支出とならないことが確実にってからこの予算の執行をしていただきたいと。

これは強い要望でございます。以上です。

委員長 鹿島としあき（減税・西区）：よろしいですか。はい。他に

中川貴元（自民・東区）：要はね。

要は皆心配をしておるわけですね。

私どもの立場というのはね、議決をする、そういう立ち場として、大丈夫かなあというところの心配なわけだ。

そうすると、市長さんが見えて、旗を振られる。当然その事務方としての局がいらっしゃる。

我々としてはこういう委員会でどれだけ議論をしても最終的には皆さんの話を信じて議決をするしかない。

今、中田委員も強い要望をねされましたが、本当に我々は皆さんのお話を信じて。

で信じていいのかどうなのか。その辺の決意よね。最後に言ってください。

渡辺局長：今回資料要求の質疑のときに私の方からも答弁させていただきました。

今回の工事の予算につきましては、許可がおりて、そして契約議案という形で6月に出して、そこでまたご審議いただくという、そういった手続きを踏もうということによってやっておりますのでございます。

スピード感を持って今回許可がない中で、予算については申し訳ございませんが、上程させていただいておりますけれども、これにつきましては私ども許可が絶対通るといふような考えのもとに予算だけはまず、上程させていただいて、そして6月議会の契約議案に向かおうというような段取りでございますので、先ほど申し上げ挙げましたように、許可が下りた後、予算の執行についての議案を提出する、そして支出すると、そういうような段取りでいきたいというふうに思っておりますので、御理解賜りたいと存じます。

委員長 鹿島としあき（減税・西区）：よろしいですか。

手塚将之（減税・千種区）：すいません。

ちょっとすいません解体にですね、5月の文化庁申請に向けて皆さん少数精鋭ですねご尽力いただいているのは承知しているんですけども、所長にお伺いしたいんですが、先ほどの答弁で、先日私がお話した解体に係る石垣保存とですね、復元にかかる石垣保存。これっていうのは一緒に出すんですか。というのは3月25日のですね石垣部会の意見を付すことということに対して、お聞きをしたところ、これ一緒に出しますということだったんですけども、先ほどの答弁ですと、解体に係る石垣保存、これは先日来答弁で、工学的見地からですね。影響は少ないのではないかとというような資料を提出するということなんですけども、復元にかかる石垣保存に関しては、一定程度を石垣部会からご意見が出ることが想定してもう出されるということなんですか。

西野所長：石垣の保存、調査につきましては、今までからですね石垣部会から多くの意見をいただいておりますので、そういったご意見に対して対応をしてですね。検討するところがこの段階で全てできているところまではいっていないというふうに認識しております。

ただ、それは復元の許可を得るまでにですね、さらに分析等を進めて行っていくということでもあります。

今回はそういうことをやっていくということも含めて、石垣部会の方にご報告をしてご意見をいただくという、そういうふうに考えております。

手塚将之（減税・千種区）：皆さんからも懸念と心配という声が出てるんですけども、私一番心配してるのはですね石垣部会との関係性ということで議論をめぐらすということは構わないんですけども、例えばなんですけど年末に石垣部会ではありませんけれども、新技術のコンペを行いますということで年末会合を開かれたと思うんですね。

この委員の中からも何か出席されてたと思うんですが、そのときに市と有識者のコミュニケーション、市と有識者のコミュニケーションがですね不足してるというようなことを指摘されてたと思うんですが、この間11月2日から3月25日までの間というのはきちんと



コミュニケーションがとられてきたという理解でよろしいでしょうか。

西野所長：部会ともコミュニケーションをとってまいりました。それからコンサルタントをですね、に依頼をしながら、そして調査や検討進めたらどうかと。これも部会にも言われたことでございます。

そういう意味でですね、コンサルタントの助言も受けながら、検討してきているということで部会と同じ歩調を取ってですね、我々検討を進めているというふうに考えております。

手塚将之（減税・千種区）：ぜひ丁寧によろしくお願いいたします。以上です。